



R6

# つむぎ合い

2025. 3. 14

永明小学校だより



No. 10

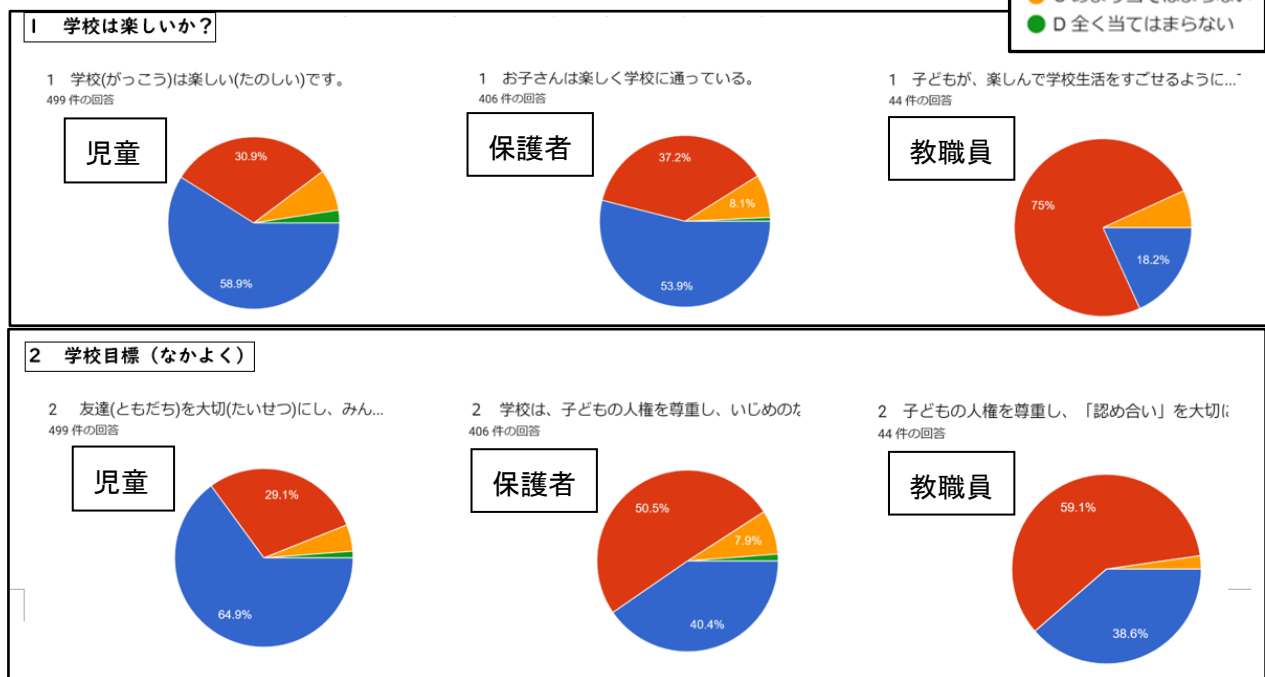
## 私たちは「相手に生きる私」をめざします

本校は今年度から「相手に生きる私」を合言葉に掲げて、相手の個性を尊重しつつ、自分の個性も輝かせることができる子どもを育てることをめざしてきました。そのために職員が持つべき姿勢として以下の2点を大切にしています。(学校だより No.5にも掲載しました)

1 一人ひとりの個性が輝く教育をめざし、「みんな同じ」からの転換を図ります。

2 一人ひとりのちがひ(多様性)を尊重し、それぞれの子どもの成長を評価します。

2学期末に実施した学校評価アンケートの結果をもとに、このことについて考察しました。参考にしたのは「学校は楽しいですか」と「友だちを大切にしていますか」の2つのアンケート結果です。



問1「楽しいですか」の質問には児童・保護者・教職員共に約9割が肯定的に回答しました。しかし、児童と保護者はその肯定9割中の3割以上、教職員は75%が「ほぼ当てはまる」と回答しました。また問2「友だちを大切に」の質問には児童・保護者・教職員共に肯定的な回答が9割を超えているなか、保護者は半数が「ほぼ当てはまる」と回答しました。問1・問2ともに「とても当てはまる」と言い切れない児童や保護者の気持ちはどんなものなのか。それを保護者アンケートの自由記述から考えてみました。(以下は自由記述の一部です)

- ・特性がありご迷惑をかけることが多い我が子。いいところをたくさん認めてくれて子どもが成長しています。
- ・発達に特性がある子にも寄り添って見守っていただけることに感謝します。
- ・学級の児童数が多い中でおとなしい子どもにまで目が届いていないのではないかと思います。
- ・発言する子どもが決まっており、先生の目に留まらない児童もいるのではないのでしょうか。
- ・先生に従う子も従わない問題児も大切な存在として扱ってほしいです。

上の記述から「とても」と言い切れない原因は、次の2点にありそうだと考えました。

- ・教職員は子ども全員の成長を見とどけられているか。一人の子どもも見落としていないか。
- ・教職員は子どもの多様性を認められているか。まだみんなが同じであるべきと考えていないか。

子どもの多様性を認めていることに肯定的な評価を受けている反面、まだそう感じられないという評価があります。私たちはこの評価を謙虚に受け止めて、前ページにある職員が持つべき姿勢をさらに大事にしていきたいと思います。そうすることが「楽しいですか」「友だちを大切に」と聞かれたときに「とても」と答えられる児童や保護者が増えることにつながると考えています。

また、「先生に対して感じていることや聞きたいことをどのように確認できるのか。直接お尋ねすることが難しいです」という声もありました。気になることは学級担任や校長・教頭にご相談いただき、保護者も学校も同じ気持ちで子どもの成長を応援していきましょう。

## 来年度の当初の予定についてお知らせします

来年度も保護者・地域・学校が同じ気持ちで子どもの成長を願い、「相手に生きる私」をめざせるように、学級や子どもに対する願いを伝え合える機会を以下のように予定しています。

(以下の機会にこだわらず、気軽に学校へご相談ください。)

○第1回授業参観・学級懇談会および PTA 総会は4月 18 日(金)に行います。なお PTA 総会は昨年度同様にオンラインで行われます。

○昨年度に引き続き家庭訪問は行わず、学級担任がご自宅の場所のみ確認させていただきます。期間は4月21日(月)～25 日(金)です(23日は除く)。またこの期間中には学級担任と相談できる機会(教育相談期間)を新たに設けます。詳細は4月に配布される通知でご確認ください。

始業式と入学式は4月4日(金)に行います。9:05 から行われる始業式には新2～6年生、13:00 から行われる入学式には新入生と6年生が参加します。6年生はお弁当が必要になりますのでご準備願います。